

# 1つでも、楽しくわかる授業を！

……若い先生たちへのアドバイス：**その5** 研究授業のコツ

2019、6、12



年に1回の研究授業、気が重いですね。

それに使う時間のぼう大なこと。

どこを授業するのか、何カ月も先の授業の進度を考え、単元を決めたものの、指導案を書くための時間だけでも何時間もかかるのに、その後、指導案についての指導を受け、修正し、当日を迎える時の気の重さ……あつという間に授業は終わり、検討会をへて、……

やっとおわった……。たまった疲れをどっと感じ……

自分にお疲れ様と言って、その夜は一人で？ あるいはみんなで、ビール？ 甘いもの？

そこまで含めて年中行事になっています。

本音を言うと、授業参観・保護者会、とともに、三大・「気の重い行事」と言ってもいいかもしれません。

当然ですね。第三者の目からどう批判されるかわからない……という不安・緊張が、頭を離れないのですから。

でも、そんな時、授業後に、子どもたちから「楽しかった」「わかった」という感想をもらえれば、苦労も報われたという思いがするでしょう。そのためのサポートを私はしたいのです。

準備の段階で1時間の授業の構成を考える方法をお教えしたいと思います。(指導案の形式については触れません)

## 目次

- 1 社会科はどんな教科？
- 2 研究授業の失敗、第一位！ 「全部終わらない！」
- 3 重要ポイントを一つにしぼる。
- 4 実物・映像・写真をたくさん用意、イメージをふくらませてから発問。
- 5 子どもたちの仮説を実証して明確な説明をする。・・・これがまとめ
- 6 他の例を見てみましょう。  
(学習問題⇒資料⇒授業の発問⇒実証資料⇒まとめ)
- 7 教育実習生へのアドバイス＝授業の組み立て方法、簡単に。

# 1 覚悟を決めましょう。社会科はどんな教科？

社会科のイメージを、他の教科と比べながら、考えてみましょう。

算数・数学は、「計算し、問題を解く教科」、  
国語は「文章を読み取ったり書く教科」、  
理科は「観察・実験し、法則を理解する教科」、  
英語は「英語で会話し文章を読む教科」  
では、社会科はどんな教科でしょう？



ひとことでいうなら、「教科書に書いてある大事なことを覚える教科」。  
そんなイメージはありませんか？

いまだに、社会科で多くの時間は、物事を説明し覚える時間に使われています。

では、社会科の目標は、ほんとうに覚えることなのでしょうか。

テストの時、子どもたちは先生に尋ねます。

「昔のことを覚えて、何の役に立つの？ 世界の他の国のことを覚えてそれも役に立つの？」

①社会科で中学校教科書に出てくる事項はいくつでしょう？

\_\_\_\_\_ 個

②国語で中学生がおぼえる漢字はいくつでしょう？

\_\_\_\_\_ 個

③英語で中学生は、覚える単語はいくつでしょう？

\_\_\_\_\_ 個



答えは、国語の漢字は、三年間で約 1110 字。

英語の単語は、三年間で 1200 語。

さて、社会はというと……

社会科全体、地理：歴史：公民の分野を合わせて出てくる項目は、他の教科をはるかに上回ります。

英語や漢字よりもさらに多いのです。

(索引から……覚えなくてはいけない重要語句ではないものの、理解できていないと困るものとして、挙げられていると考え、索引の語句を数えました。)

歴史 = 人物 310 人 + 事項 745 = 計 1055。  
これに地理 = 地名 142 + 事項 410 = 計 552  
公民 = 467、総合計 = 2074 個  
これが教科書に出てくる語句の数の総計になります。

圧倒的な量のこうした重要事項を、理解し覚えなくてはいけない教科だからこそ、社会科への拒否反応が強いのです。社会科のテストを子どもたちが嫌いなのは、当然と言えば当然なのです。

私たち社会科の教師は覚悟すべきでしょう。

- \* これだけぼう大な知識量を求める教科なのだから、子どもたちから嫌われても仕方のない教科だということ。**
- \* そのまま放置していたら、嫌いな子どもたちが3年間でどんどん増えていくこと。**
- \* 中学校の中で、一番難しい教科を教えるのが、社会科教師だと自覚すること。**
- \* だからこそ、必要なのは、内容の精選…どうしても大事なものは何かを考えて授業すること。**
- \* 嫌われないためには、おもしろさ、楽しさ(授業でも本質でも)が重要であること。**

では、社会科の目標が、いつも、なぜ覚えることになってしまっているのか、その理由を簡単に紹介しましょう。

社会科こそ、中国・日本の伝統的な学問の形を残していると思います。  
東アジアでは、学問と言えば、儒学で、その習得を測る物差しは科挙でした。

中国で官吏が学ぶのは、儒教の古典、「論語」や「孟子」などで、丸暗記することがまず第一の勉強方法でした。

そして、官吏への厳しい登用試験の科挙は、なんと 1300 年間！！(隋 598 年から清 1905 年まで…つまり、20 世紀まで行われていたのです)に、わたって行われました。

しかも試験に受かれば、そのあとの立身出世が約束され、一生安泰で暮らせます。  
江戸時代、日本でもこの中国の伝統にならって、儒教・朱子学が武士の教養として奨励され、明治以来の近代化をねらった学校教育のはずでしたが、戦前でも、論語が学校で教えられ、子どもたちが覚えました。

現代の中国・韓国・台湾・日本で「受験戦争」と呼ばれるまでに、暗記、テストが繰り返されているのは、まず「覚える勉強」という歴史が色濃く残っているせいだと思います。中国の南京には、科挙の試験を行なう試験会場が今も残っています。討論や発表ではなく、そういう暗記型テストが重要視されたことが、その科挙博物館でも、よくわかります。

しかし、科挙型のテストからは、もう脱却してもいいのではないのでしょうか。

私自身は、社会科は、覚える教科ではないと思います。

歴史にしても、地理にしても、公民にしても、人間が生きている「社会」を理解する教科、それが社会科の目的だと思います。

私自身がおぼえることが嫌いで、わかることの方が好きな少女でしたから。



科挙のため、幅 1.5m 位の小さな部屋、試験場



## 2 研究授業の失敗の原因、第一位！



研究授業で、失敗に終わる原因、第一位は何でしょうか？

私が40回以上の研究授業の経験から言うと、それは「内容や資料の詰め込みすぎで、終わらない。まとめまで行かない」でした。

特に、社会科では多いと思いますが、みなさんは、いかがでしょうか。

ちなみに、第二位の原因は、

「焦点の定まらない発問(=何を言っているのか子どもたちにわからない、あるいは誘導尋問のせいで白けてしまう授業)」でした。みなさんは、どういう授業を経験されていますか。

授業の形は、次のような形が多いと思います。

- ①前時の復習・確認
- ②今日勉強する内容を提示、めあてを確認
- ③内容について、どんな事象なのか、概略を説明
- ④その内容についての問題(=原因や様子、結果など)を考える。時には話し合う。時には発表。
- ⑤結論・まとめ

なぜ、結論まで行かないか、あるいは話し合いの途中で終わってしまうのか、

それは、内容の量が多すぎたり、単純に資料の量が多すぎたり、詰め込みすぎて、説明に手間取ったり、子どもたちの質問が突然出て来たりで、予想以上に時間がかかってしまうからです。

しかし、一方、年間計画の計算でいくと、

教科書を1時間に2ページ進めて、やっと終わる・・・

そういう授業のスピードで書いてあるので、2ページ1時間で計画しないといけない・・・

そう思っている方も多いでしょう。それが目安なんだ・・・と。

しかし、それは、教科書会社の作った計画です。

縄文時代の2ページと、幕末の2ページを、同じ1時間で説明することは、可能です。

しかし、その説明で子どもたちは理解できるでしょうか。幕末・明治維新の時代についても、2ページ1時間でやるとしたら、それは、単なるアリバイ工作と同じです。一応説明しましたという形だけの授業で、わかるかどうかは問題外、子どもたちは置き去りです。

もし、研究授業の時に、その2ページ1時間の法則にのっとり、2ページの内容全てを網羅して授業するとしたら、絶対に1時間の中では納まらず、中途半端な討論、説明に終わってしまうでしょう。

ついてこれない子どもたちは、・・・きつとノートを取りながら・・・わからなくても覚えなきゃ、そう心の中で考えながら、この時間は終わります。それでは、もったいない。

子どもたちも良くがんばった、先生も子どもたちも「わかって満足できる笑顔」で終わったら、きつと幸せな授業になると思います。

そのためには、ぼう大な情報量が載っている教科書から、いかにその時代のポイントを選び出すか、その重要ポイントに沿って授業をふくらませて、子どもたちに考えてもらうか、まず、それを考えて、とにかく、内容を絞り、ポイントを絞り、考えてもらう発問も資料も絞る、これが重要なのです。

どのように絞っていくかについて、説明しましょう。



### 3 重要ポイントを1つに絞る。

5月、教育実習生の授業を見ました。

単元は、大航海時代の始まりで、対象の授業は、日本にポルトガル人、スペイン人がやってきて、南蛮貿易を始め、鉄砲が伝わり、キリスト教の布教が始まる、そういう箇所の授業でした。

ここでは、南蛮貿易、鉄砲伝来、キリスト教・フランシスコザビエルの布教の三つが、押さえるべき大まかな内容になります。実習生は、それぞれをくわしく説明したあと、二つの問いを子どもたちに考えさせました。

**A：なぜ鉄砲が大量生産されたのか。**

**B：なぜ、キリスト教が広まったのか。**



この問題をどう思いますか。

私は、とてもおもしろい問題の設定だと思いました。

しかし、実際の授業では、この二つの問題を考える時間は数分、そして、各問いに意見を言ったのは、それぞれ二人ずつでした。

実習生は、答えを、教科書と資料から次のように読み取らせました。

答え A：鉄砲の威力がすごいため、みんな欲しがった。

B：南蛮貿易がもうかるので、キリスト教を受け入れた。

これだけむずかしい問題を、1時間の中で二つも考えさせようとしたことに無理があったと思います。

この二つの問いは、とてもおもしろい問いではありますが、その指摘しているおもしろさを味わうには、もっと話し合う時間やたくさんの資料が必要でした。

では、どうすべきか……………

**①まず、子どもたちが、授業の中でたっぷり時間を取って考える問いは、1つにしぼる。**

**②発問は 「なぜ」 (=理由を考えさせるもの) よりも  
「どんな」・「どのように」 (=状態を考えさせるもの) の方が、考えやすい。**

**③それは、子どもたちが意見をいろいろ出した後、先生が、実際はどうだったか、説明したり確認する時に**

**\*理由を聞く問いの場合は、一生懸命子どもたちが予測して考えても、たいてい  
諸説あって正しいかどうか、実証しにくい**

(過去の歴史だったりして推測の域を出ないので、子どもたちは、自分たちの考えが正しいのかどうか、もやもやしたまま終わってしまいます)

**\*状態を聞く問いの場合は、子どもたちの予想の一部にきちんとあてはまる資料が、たいてい  
あります。**

(文書や絵で残されているので、ひと目見て、自分の考えが正しいのかわかる)

**④私なら、どうするか。**

まず、**鉄砲だけを重要ポイントにします。そして、“状態を聞く問い” に変えていきます。**

たとえば、どの子も考えられる問いとして、いくつか例を出しましょう。(上の A や B ではなく)

C: 最初、鉄砲が日本に入って来た時、人々(大名・武士・農民)は、それぞれ、鉄砲について <b>どう</b> 考えただろうか
D: 鉄砲とそれまでの武器とは、 <b>どのくらい</b> 威力に差があるだろう。
E: 種子島から伝わった鉄砲を、さらに作るために必要なものは、 <b>どんな</b> ものだろう。
F: 日本中に広まるまでに、 <b>どのくらい</b> かかっただろうか。
G: 鉄砲を作る職人は、 <b>どのくらい</b> いただろう。
H: <b>誰が</b> 、この鉄砲を使い、戦争をするようになっただろうか。
I: 鉄砲が日本に入ってきて、 <b>どんな</b> 影響があっただろうか

いくつも考えられるこれらの問いから、一つ(あるいは二つ)選び討論し、大名たちが欲しかったこと、あるいは、鉄砲を作るための資金・材料・技術を準備する人、鉄砲を撃つ側の訓練をする人たち……のイメージを持つことができ、このあとの戦国時代の戦の変化についても考えられるようになるでしょう。

\* 参考: あなたなら、どんな発問を考えますか。「なぜ」ではない問いを考えてみてください。

では、なぜキリスト教の広がり理由をたずねた問いを、私が選ばなかったのか、それには理由があります。それは、当時の農民や信徒の気持ちを描いた資料は、ごくごく少ないと予想されるからです。(もしかしたら、フロイスの記録などに載っているかもしれませんが、ていねいに調べることが必要です) 子どもたちが意見を出しても、合っているかどうか、資料が無くて実証ができなければ、正しいかどうか、わかりませんし、次の時代への影響を考えるのも、全く推測だけになってしまいます。鉄砲を取り上げた方が、具体的な影響を確認できると考えるからです。



キリスト教がなぜ広まったのか、私なりの仮説を立ててみましたが、これも、私の推測にしすぎません。あてはまる資料を見つければ、興味深い授業も組み立てることができると思いますが、今の段階では単なる仮説です。

**◆なぜ、キリスト教が広まったのか、その理由・・・私が考えた仮説**

- ・戦国時代の寺は、オールマイティの権力者だった。高利貸しで金を貸し付け儲ける、所有している田畑には税をかけ蓄える、傭兵集団を育て寺院を守る、情報戦では僧兵が全国を回り必要な情報を集めてくる。
  - ・それだけ強大な権力を持つのが、戦国時代の寺だとすると、農民にとってはその権力に依存することができれば、戦を避けたり守ってもらったりすることができる。しかし、逆の立場に立つと、寺に日常的に苦しめられることもある。
  - ・キリスト教が大名に認められた九州では、教会の新しい権力に依存して、村や国を守るという意識も生まれただろう。或いは、既存の勢力を、押さえるためにキリスト教を利用したというもあるはず。
  - ・戦国大名に取ってみると、戦に負ければ首を取られる恐怖があり、戦に命をかけて臨む時に、どうしても守護神としての仏様や精神集中のための禅宗が必要だが、キリスト教の天国や救済も、戦に向かう時の救いになっていったのではないか。
  - ・南蛮貿易の利益もあって、新しい物品・知識なども取り入れたいという大名の希望もあっただろう。
  - ・キリスト教の本来の、神の前の平等の思想についても、魅かれる大名や農民がいただろう。
- ➡ 平等思想、南蛮貿易の利益に魅かれ、今までの寺や宗徒の勢力をおさえるためではないか

## 4 子どもたちの共感を作るために実物・映像を用意する。

子どもたちが問いについて、考えるためには、その時代の状況がわかり、想像できて、「自分ならどうするか」と考えられることが必要です。

たとえば、鉄砲伝来の影響を考える時に、鉄砲を撃つ場面を実際に見たり、鉄砲を作る場面を資料で見たりして、「鉄砲を戦にどう使っただろう?」とか「鉄砲を誰が作っただろう?」と考えられると、容易に影響についても考えられるはずです。

実習生は、火縄銃の実演シーンの動画を子どもたちに見せていました。これはとても良かったと思います。

こんなふうに、その時代に自分を置き換えられたり(歴史)、その状況に自分が置かれたらと想像したり(公民・地理)できるためには、言葉だけでなく、たくさんの資料が無いと子どもたちは想像できません。

文字だけでなく、**イメージするためには**

**最も良いのは実物、次に映像、写真だけでも、とにかく集める必要があります。**

実習生が他に用意したものは

- \* 南蛮貿易の図・・・資料集から
- \* 地図帳で種子島を確認
- \* 南蛮貿易の絵・・・教科書
- \* 火縄銃と弓矢の威力を比較したグラフ
- \* 火縄銃の動画・・・火縄銃を撃っているところ
- \* キリシタンの人数の増加のグラフ・・・資料集から でした。



私が用意するとしたら、次のようなものを拡大して作ったり探したりします。

- \* 南蛮貿易の絵・・・南蛮人たちの様子の部分を拡大して
- \* フランシスコザビエルの肖像画
- \* 南蛮貿易の品・・・カステラ・ポーロ・ビロード・カルタなど
- \* 火縄銃、実物大の写真
- \* 火縄銃に必要な火薬・原料の写真
- \* 雑賀衆・根来衆などの絵・・・あるかどうか?
- \* 堺の町・町衆の様子・・・あるかどうか?
- \* 合戦の図・・・長篠の戦の一部
- \* 鉄砲鍛冶の様子・・・映像があれば・・・



あなたなら、どんな写真・資料を用意しますか。



こうした資料を全部使うわけにはいきませんが、こうした資料を子どもたちと一緒に見ていくことで、子どもたちは、いろいろな想像をしてきて、この時代のイメージをふくらませてくれます。

その上で、出てきた意見は、優劣の評価をせず、否定せずに全部板書します。

(誤っているように思える意見も、あとで調べてみると、子どもの方の仮説が合っていたということが、よくあります。

ですから、ふざけたように見える意見でも、全部、私は黒板に書きます。)

そして、その後、様々な仮説を、子どもたちは立ててくれるでしょう。

例えば、

### I: 鉄砲が日本に入ってきて、どんな影響があったらうか

この問いについて、子どもたちはいろいろ考えてくれると思います。私の予想は、

- ・みんな、大名が欲しがった
- ・戦が変わっていった。
- ・いろいろな仕事が増えた
- ・死人が増えた。けが人も増えた
- ・鉄砲を作った人はもうけた
- ・泥棒が増えた
- ・よろいが発達した
- ・鉄砲を取り合いになった。



ここまでしか出なかつたら、ヒントとして次のようなアドバイスをします。

**先生：鉄砲が入ってきたということは、作る人、買う人、使う人、使われた人…  
そういう人たちが、出てくるということだよ。**

そうすると千差万別の疑問が出てきます。

- ・作った人は何人くらいいて、だれが作ったのか
- ・お金はどうしたのか
- ・材料はどうしたのか
- ・火薬はどこで手に入れたらうか
- ・鉄砲をたくさん買えたのは誰なのか？
- ・使う人はどうやって撃ち方を覚えたのか
- ・どんな時に使ったのたらうか
- ・当たった人は皆、死んだたらうか

それに対して、これも千差万別の推理・仮説が生まれるでしょう。

- ・種子島から入ったのだから、作ったのは長崎周辺ではないか
- ・日本刀を作っていた人たちが、鉄砲も作ったんじゃないたらうか
- ・撃ち方は、きっとポルトガル人にならって、どんどん覚えていったのじゃないかな
- ・鉄砲を売る時に、きっと撃ち方も教わったはず。
- ・でも、慣れるまで大変でしょう。だから、撃つ人たちも訓練したグループだったのでは？
- ・大名が、訓練した集団を作ったんじゃないかな
- ・集団を作れた人が戦に強くなった。

こんなふうに、いろいろな想像を班やグループでめぐらせていけば、鉄砲がどのように日本に広まり、使われていたかという仮説を、子どもたちも立てることができると思います。

## 5 子どもたちの仮説を実証して明確な説明をする。

### …これがまとめ

様々な資料をもとにして、その地域の(地理)、或いはその状況の(公民)、或いは当時の(歴史)様子を思い描き、子どもたちがこんなふうではないかという仮説を立てる。そうしていろいろ考えた仮説が、もしかして史実(歴史)・現実(地理・公民)と合っていたら、子どもたちは、喜んで有頂天になるでしょう。

「私たちと同じ考えをしていた」「同じ行動をしていたんだ」  
遠い世界と思っていた、昔の人々や世界の人々が、一気に近づいた思いがして、「わかった」と実感し、「社会のおもしろさ」を感じて、自信を持つと思います。

ですから、「どのように」「どんな」…について、仮説を子どもたちにたてさせるつもりなら、答えとしての資料を用意しておかなくてはなりません。

それに、一番適切なのは、当時の文書、当時の残された絵です。

あるいは、研究者のたてた「通説」を説明するのでも、かまいません。

そうして「わかった」と実感した子どもたちは、決して暗記だけではないので、確実に覚えていて、そのことには自信をもって答え、受験にも果敢に挑みます。

私が鉄砲について、最後のまとめとして用意するものは

「長篠の戦の屏風絵」と「戦に使われた鉄砲の数を表にした物」です。



これを見ると、織田信長は鉄砲で武田信玄に勝ち、その後の戦では、幅広く、どこの戦でも、鉄砲が使われていたことが、よくわかるでしょう。

そして、全国統一した後には、もちろんそうした鉄砲を放置せず、武装解除ではないですが、秀吉が「刀狩」をした意味も、江戸時代、関所で「入り鉄砲、出女」に警戒したことも、子どもたちには、よくわかるのではないのでしょうか。

## 鉄砲の年表

年号	できごと	使われた銃の数
1543	鉄砲伝来(種子島時堯・鉄砲1丁2000両で買い取る) 1丁は種子島、1丁は紀州根来寺へ	
1544	鉄砲のネジの製造	
1546?	堺の鍛冶屋が種子島で技術を習得	
1548	将軍が築城、鉄砲防御のため城壁を二重にした	
1551	厳島の戦い	大内氏数百丁
1563	毛利対尼子	毛利氏300丁鉄砲隊 > 尼子氏側も
1570	石山合戦 石山本願寺VS信長	双方? 3000丁
1575	長篠の戦	信長 3000丁
1592	文禄・慶長の役	7000丁?
戦国末期		50万丁
1614	大阪夏の陣	大砲100門

授業のまとめとして、子どもたちに鉄砲のもたらした影響を説明するとしたら、私は次のような説明をするでしょう。

### ◆鉄砲が日本に持ち込まれた影響はどのようなものか

- ・鉄砲が日本に持ち込まれた時、初めて見た人々は、とても驚いた。その音により、騎馬戦を戦うことに無理が生じ、威力と鉄をも砕く破壊力に、武士たちは驚いただろう。
- ・大名、武士はとても鉄砲を欲しがっただろう。戦を変える可能性があることに、いち早く気づいたはずだ。
- ・鉄砲を作るには、必要なものがある。硝石・硫黄・木炭、鉄。
- ・さらに、技術が必要だった。ねじのしくみは種子島から伝わったが、他の技術はもともと日本にあった鍛冶屋の高い技術を生かして、作ることができた。
- ・硝石などは中国から輸入しなければ手に入らないので、鉄砲を製作し、鉄砲を使う技術者を育てるためには、資本を持つ集団が必要だったが、それに立候補できたのが、堺の町衆だった。貿易が得意。
- ・豊富な財力と技術とをもとに堺は、鉄砲を大量生産し、和歌山の雑賀衆や根来衆 = 傭兵集団に鉄砲を売った。それを生かして、石山本願寺や寺院が織田勢などと激戦を交えていく。

➡ 鉄砲を必要とする集団・大名がいて、堺が資本と技術を提供して大量に作らせ、全国に売られた。鉄砲をにぎる財力と技術を持つものが、全国統一を果たしていく。

## 6 他の例を見てみましょう。

私が書きたいいくつかの指導案の中で、並べてみました。少しは参考になるのではないかと思います。

**学習問題** = この授業の目標・めあて

**発問** = この授業の中で子どもたちが考える問題

**資料** = イメージするための写真・実物

**実証** = 子どもたちの意見が正しいことを証明する資料

**まとめ** = 学習問題に対応する答え、授業で学んだこと

分野	単元	学習問題・発問	発問＝重要ポイント	資料	実証	まとめ
歴史	原始時代	人類が狩りと採集の時代に獲得した知恵、技術、文化は、今の私たちの生活に <b>どんな</b> 形で影響を与えているだろうか。	石器・火・言葉の使用前・使用後では <b>どのように</b> 人類の生活が違って来たか、考えよう	人類の祖先実物大模型、石器・灰跡写真、復元想像図	NHK「人類の祖先」（石器・火の使用・言葉の発明）	人類の祖先が獲得した石器・火・言葉などの技術は、それが無ければ、今の生活が成り立たないほど、大事な技術だった。その技術があるから他の動物とは大きく違う人類として生活している。
歴史	古代中国	古代の中国では <b>どのような</b> 文明が栄え、日本に <b>どのような</b> 影響を与えただろうか？	甲骨文字を見ながら今の字との違いと同じところを探し、 <b>どんな</b> 使われ方をしてるか考えよう	殷の王墓図 甲骨文字模型・プリント 魏志倭人伝	NHK「世界遺産・殷墟」（生贄と神）	古代中国では神と一体化した政治が行われ、そのための儀式も考え出されていた。そして、日本の邪馬台国の政治のやり方にも、中国の影響があった。
歴史	古墳時代	邪馬台国・そして古墳の時代にかけて、人々は <b>どう</b> 暮らしていただろうか	日本の遺物と朝鮮半島・中国の遺物について <b>どんな</b> 共通点があるか	魏志倭人伝 古墳写真、遺物写真 中国遺物写真	古事記・日本書紀	中国文明の影響は、アジア各地に及び、その影響を受けたクニが日本列島にもできあがって来つつあった。それが古墳時代である。
歴史	奈良時代	「奈良の都＝平城京」の特徴は、 <b>何</b> だろうか？ 青丹よし奈良の都は咲く花のおうがごとく今盛りなり	平城京は、 <b>どんな</b> 都の様子だったのだろう。 華やかな都を作ることができた富は <b>どのくらい</b> 違うか	平城京の遺物(木簡土器・硯)都の様子の復元図、大仏の写真、	倉庫群写真 正倉院 正倉院の宝物	奈良の都は、数万人が住む国際都市だった。しかし、疫病などの問題も多く、その解決のために大仏は造られた。その巨大工事を可能にしたのが、奈良時代の政治のしくみ＝税制である。
歴史	鎌倉時代	鎌倉時代の都で、人々は <b>どんな</b> 暮らしをしていただろうか。	鎌倉時代の都のようすは <b>どんな</b> ようすだろう。	出土遺物の写真(漆塗椀、はし)、宋銭 クイズプリント	当時の旅行記、都の文章 武士の館図	鎌倉時代の武士は、所領の経営、鉄・馬の生産によって、豊かさを生み出し、貴族に対抗できるような力をつけた。
歴史	大航海時代	ルネサンスのイタリアの絵画は、 <b>どのような</b> 時代に、 <b>どのようにして</b> (=社会的背景)、描かれたものだろうか。	画家達がどうやって生計を立てていたかサポートをしていたのは <b>誰か</b> を、描いていた肖像画や描いた場所から考えよう	ルネサンス以前の宗教画、ビーナスの誕生、ダビデ像の写真、世界地図、スパイス実物	DVD「スパイスの旅」 メジチ家と芸術家の繋がり	ルネサンスの絵画は、ベネチアを中心とするスパイス海外貿易商人によって支えられイタリアなどの芸術家によって描かれた。そして、その後、世界に大きな影響を与えた。
歴史	第1次世界大戦	帝国主義に組み込まれた世界は、その後 <b>どんなふう</b> に変化していくだろうか	第一次大戦について、 <b>どのくらいの</b> 期間・ <b>どんな</b> 兵器・ <b>どのくらいの</b> 人員・特徴などについて予想し、理由も発表する	電信・電話自動車などの発明写真、帝国主義世界地図 開戦の写真	新型兵器の写真、植民地兵の写真、死者数のグラフ	産業の発達で原料調達・市場を必要とし、世界を植民地として分割する先進諸国間の関係が、人命をも大量に消費してしまう世界大戦へとつながる

公 民	人権	なぜ、世界中がオバマ大統領の誕生に注目したのか。 <b>どんな</b> 意味があったのだろうか	黒人奴隷とオバマ大統領の写真の違いに注目し、この間の年月に <b>どんなこと</b> があったのか、考える	奴隷の写真、オバマ大統領写真 合衆国憲法	キング牧師についての番組 NHK	自由・平等が、法律上で認められるようになっても、それがすべての人々に認められるためには日々の人々の活動が現実を変え、作りだしていった。
公 民	株	株は社会の中で、 <b>どんな</b> 働きをするものだろうか？	大株主には <b>どんな</b> 人々がいるかを考え、銀行のお金が <b>どのように</b> 循環しているか考える	株価資料 会社四季報コピー 配当金・株主資料 プリント	株、配当金、銀行、私たちの関係を描いた図	株は、企業の経済活動を支える資本の基礎であり、その資本を支えているのは、私たちでもある。(企業は社会的存在)

## 教育実習生に渡したアドバイス(・・・・・・・・・・ご参考までに)

\*教育実習生の授業としては70点~80点くらいです。

=現場に入ったらがんばってねというメッセージです。

## 良いところ

①準備をたくさんしてある…これはとても大事です。

資料や映像。授業の流れが頭に入っている。教材研究もたくさんしてある。

②声のトーンがとても聞きやすい。はっきりしていて後ろまで聞こえる。

自分の声を録音して聞いて見るといいですよ。

③板書の字もきれい。わかりやすい。

それだけでなく、子どもたちの意見を聞いた子たちのものを全部書いていったこと。

(先生に都合のいい意見だけ板書するのではなく・・・)

## 授業を創る時大切なこと…フロとしてこれから教員になった時のために

**大まかに言えば、二つの質問がとても難しすぎて、鉄砲の質問だけで十分だという意見です。**

\*教科書は、事項が多すぎて、必要のないものもたくさん盛り込みすぎている。子どもたちに何がわかるのが一番大切かを、現場に入ったら、常に考えてください。事項は歴史だけで1000以上もあります。英語や国語より多い。社会科が嫌われる理由です。1000個を175時間で教えられませんし必要ありません。

	授業の組み立て方	今回の授業ならどうするか	今日の授業は？
①	授業1時間で理解してほしい最重要ポイントはせいぜい1つ(全員の子どもたちのペースに合わせるため)	A南蛮貿易、B鉄砲、Cキリスト教が入ってきたこと、のうちA+Bか A+Cかどちらかに絞った方が良かった。影響まで押さえるのなら特に。	銀は必要ありません。 内容が速くて多すぎたように思います。弾丸授業でしたよ。
②	歴史の授業では 1:新しいその時代の進展 2:その時代の人々への共感 3:新しい進展の意味(社会的影響) の三つが全員にわかれば授業は成功だが、1・2がわからないと3はわからない。	1:A南蛮貿易、B鉄砲、Cキリスト教 2:南蛮人や南蛮貿易品への驚き、鉄砲への驚き、戦国時代の人々がキリスト教をどう感じたかわからないと3:その影響はわからない ⑤で書きます。	1 Aもう少し具体的説明が必要、短すぎた。B鉄砲の殺傷能力は〇、音にも注目する。Cこれはザビエルの名前と人数のみの印象。もっと詳しく。 2これはほとんどなかった
③	最重要ポイントについて、なるべく文字だけでなく目で見て分かるものを用意する。 実物、映像、写真 =わかる実感・おもしろさが生まれる	考えられる物 A:ガラス・カステラ・ビロードなど B:鉄砲は実物大に拡大して大きさを。火縄銃の大量生産の表も探せばあると思います。=戦国時代50万丁以上 C:キリスト教についての文書・布教の際とか孤児院や病院の様子を描いた文章。ザビエルの手記があるはず =これは調べたが、図書館に行かないと調べられない。難問	貿易の図△(詳しく、奴隷貿易まで入っていたので自分で簡略化したものを) 地図帳△(東南アジアの入った地図のページを指示した方がいい) 南蛮貿易の絵△(背と格好のみしか読み取れない) 火縄銃の動画◎大変良い キリシタンのグラフ○(グラフの意味を説明しなかった。人数と年号を最低確認)

<p>④</p>	<p>全員に考えてもらいたい質問(最重要ポイントに関するもの)については、10分はかけ、なるべく多くの子どもたちに意見を聞く。</p> <p>この場合なら私なら次のような質問を考えさせる。例として</p> <p><b>B：鉄砲を見た戦国時代の人々＝大名・農民の人たちはどんなことを思っただろうか⇒怖い、怖ろしい、勝てる、馬が逃げるだろう、誰が作ったのか？誰が持っているのだろう？もっと増やしたい</b></p> <p><b>C：ザビエルは日本に来てどう感じただろう、どうやってキリスト教を広めようとしただろうか</b></p> <p>＝これは実証が難しい</p> <p>昨日の夜調べましたが・・・</p> <p>よく調べたうえで質問化を考えた方がいい</p>	<p>Bなぜ鉄砲が大量生産されたのか</p> <p>Cなぜ、キリスト教が広まったのか</p> <p>どちらかに絞るべきだった。<b>発問が難しい。</b></p> <p>Bなら子どもたちの考えの予想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大名が戦争に勝たかったから。</li> <li>・職人がうまく技術を伝えた</li> <li>・お金が必要なんじゃないか</li> <li>・鉄も必要、日本刀を作る技術があった。</li> <li>・誰が作ったんだろう。</li> </ul> <p>Cならの子どもたちの考えの予想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教が平等だから</li> <li>・農民たちにとって天国に行ける</li> <li>・大名はもっともうけたい</li> <li>・戦争に負けたら売り飛ばされるから戦争したくない。</li> <li>・キリスト教の人が優しかったから</li> <li>・宣教師がイケメンだった</li> <li>・宣教師が金持ちそうに見えた</li> </ul>	<p>2人ずつしかあてなかったの で答えが全員のものになっ ていない。</p> <p>もっと時間を取れば子ども たちはたくさん言ってくれ るはず</p> <p>とんでもない意見の中にも、 当時の人々の気持ちを想像 したり、今の私たちと気持ち が通じるものも出てきて、膨 らむから、</p> <p>もっと意見をたくさん出し てもらおう。</p> <p>みんなが予想してこそ、 ⑤の説明が生きてくる。</p>
<p>⑤</p>	<p>この質問についての明確な答えと説明を授業の結論にする＝わかる実感・おもしろさ</p>	<p>明確な答えと説明の例</p> <p>B鉄砲が大量生産されたわけ</p> <p>日本には中世優れた製鉄技術があった。だからこそ、大量生産ができた。堺の商人などが雑賀衆(鉄砲集団)を雇い武装できるだけの資金を持っていた。信長も堺に頼んだ。</p> <p>戦争の武器としては、初期は馬を音によって混乱させる効果も絶大だった。火薬の製造などを含め資金を大量に持ち、技術を取り入れる者が勝つ。</p> <p>Cキリスト教が受け入れられたわけ</p> <p>ザビエルの戦略もあったはず＝孤児院・救済、何十万人にも増えたのは、大名の支援とともに、戦国時代の人々の疲弊もあるだろう。</p> <p>東洋文庫にあたらないとたぶん実証できないようです。</p>	<p>教科書では鉄砲についての 質問の答えはなし。</p> <p>キリスト教については 孤児院と貿易の利益のみ これでは、子どもたちはわか ると言ってくれない。</p>

\*指導案に、めあての質問を書いたら、最後のまとめも四角く囲って、自分なりの答えとして、文章化して載せた方がいいです。それが、最終の学習目標になりますので、どの子もそれが書けたら授業は◎